

株式会社 環境内水面資源研究所

● 藻場の設計から、連携の設計へ

知識
製造業
宣言

山と海をつなげて資源・生命を循環させることを
目指し、環境価値を事業構造の中に実装する

特徴

- ▶ 資源再循環によるエネルギーの流動と固定化
- ▶ 種々の無機物および有機物を用いて藻場に必要構造物体を設計
- ▶ 環境調和型構造体による藻場再生で生命を循環

解決したい課題、実現したい未来

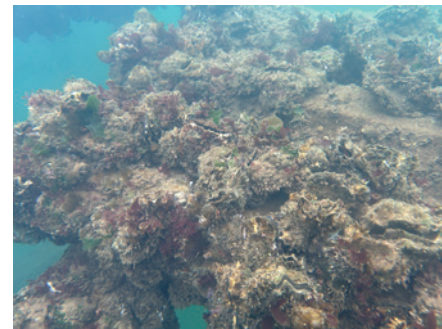
磯焼けによる沿岸生態系の疲弊は深刻な問題です。しかし、環境価値のみを前面に出した事業では、なかなか広がりを持っていないのが現状の課題です。一方で、既存工程、あるいはリスク低減といった文脈に環境技術を組み込むと動きやすくなるのが分かってきました。私たちは、環境連携の成立条件を整理し、環境価値を事業構造の中に実装することを目指します。

注力したい領域

- ◎ エネルギー・環境・資源
- ☑ 健康・医療・生活
- ☑ 食料・農林水産
- ☑ 海洋・宇宙
- 情報通信
- モビリティ
- インフラ・住宅

製品・サービス、強み

当社では、長年の経験に基づくビオトープ構築のノウハウがあり、研究拠点では既に多様な生態系を確立させています。生態系確立のための基礎には、生物を介した無機物および有機物の有効活用による構造物の作製と、これら構造物を利用した初期の生態系である「植物（動物）プランクトン生成→藻場造成→漁礁（ゆりかご）」を実証するために、海洋（酒田港北港）で基礎実験をしています。特に生態系のシンボルでもある「ウナギ」に着目し、シラスウナギの遡上を視野に、仔魚の隠れ家としての「藻場」と、その造成に必要な「構造体」を設計します。



構造物の投入から約2年半（2026.2.22時点）
／岩牡蠣が育っている

コミュニケーター からひとこと



井上 麻衣

藻場構築と構造体設計の思想を掲げ、知識製造による新たな連携に挑戦してきました。しかし、より広げるためには「連携の再現性」という問いが加わります。連携の成功事例も、連携のアイデアがあってもなかなか進められない停滞も経験したからこそ、自然環境の再構築を広げるための条件を改めて探ります。

■ 会社概要

代表者 …… 佐藤 嘉

創業/設立 …… 2023年4月21日

事業内容 …… 内水面環境および沿岸部における生態系の調査・研究・保全および管理

従業員数 …… 5名

所在地 …… 山形県鶴岡市羽黒町市野山字山王林125-1

WEB …… <https://www.bio-tope.jp/>

その他 …… メンバー紹介 / 佐藤嘉（博士：工学）、山澤清（ビオトープ研究者、元ミラサガ専門指導員）

